

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに関する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【茨城県】

1 実践テーマ	【 III, V 】
2 実施対象者	県立下妻第二高等学校 第1学年 280名 同 赤十字部 50名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ①教科名 (総合的な学習の時間) ②行事名 () ③その他 () (2) 地域における活動 ①イベント名 () ②その他 (下妻特別支援学校との交流活動)
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツを体験することにより、障害の有無に関わらず、ルールなどの工夫次第で、誰でもスポーツの素晴らしさを共有できることを知り、共生社会のヒントを得る。 ・実際にパラリンピック選手の講演を聞き、その生き方や競技に対する姿勢を知ることにより、生徒自身が自分を見つめ直す機会とし、また、オリンピックやパラリンピックへの興味関心の向上を図る。
5 取組内容	<p>活動内容は、①赤十字部と下妻特別支援学校高等部とのスポーツ交流と、②パラリンピック選手を招いての講演会である。</p> <p>①今年度2回、下妻特別支援学校に赴き、グループに分かれて「ボッチャ」「卓球バレー」を行った。ボッチャについては、障害の程度に応じてルールを柔軟に変え、レクリエーションの要素の強いゲームから、本格的な競技ボッチャのゲームまで、各グループとも楽しく交流をすることができた。また、交流の後に両校とも感想をまとめておき、両校共同で発行する交流リーフレットを作成し、地域の公共施設等に配布して、地域の方にも活動の様子をお知らせした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>②10月24日、アルペンスキー選手、三澤拓選手（SMBC 日興証券 所属）を招いて講演会を行った。講師の決定については、筑波大学体育系の宮崎明世先生にご尽力いただいた。三澤選手は、6歳の時に交通事故で左足を失うが、不屈の精神でいろいろなスポーツに取り組んできた。冬季パラリンピックに4回出場し、現在もハードなトレーニングを積ん</p>

でいる方である。その前向きな生き方や考え方をお聞きすることができ、生徒たちは自分の生き方を改めて振り返る機会となった。また、アンケートも実施し、オリンピック・パラリンピックへの興味関心の度合いを測った。

6 主な成果 本校は、この事業の取り組みは2年目となる。

①赤十字部と下妻特別支援学校高等部との交流は、約10年続けており、ここ数年は東京パラリンピックを見据えて、スポーツ交流を行ってきた。ポッチャや卓球バレーなどで、生徒同士が親しくなり、楽しくコミュニケーションをとることができた。下妻特別支援学校は、昨年全国特別支援学校ポッチャ大会でベスト4に進出した実力があり、競技ポッチャでは、下妻特別支援学校の生徒がリードして、チームごとに戦略を立て、協力して競技に参加している様子が見られた。その姿には、健常者・障害者の垣根は感じられなかった。また、車いすの押し方や扱い方を下特の先生からアドバイスをもらい、本校の生徒も自然に車いすを押ししたり、話しかけたりし、交流を心から楽しむことができた。この交流を中心として、両校の活動をA4両面のリーフレットにまとめた。また、リーフレットは、下妻市内の公共施設（市役所・図書館・スポーツ施設など）にも置き、市民の方にも読んでもらうようにした。

②今年度、講演会について行ったアンケートの結果は以下の通りである。
(回答 249 名) (%)

質問項目	とてもある	ある	あまりない	ない
(1)オリンピックに興味がありますか。	23.7	57.8	14.1	4.4
(2)講演を聞く前、パラリンピックに興味がありましたか。	8.8	36.9	49.8	4.0
(3)講演を聞いて、パラリンピックに興味を持ちましたか。	39.0	55.4	3.6	1.2
(4)オリ・パラにボランティアなどで参加したいですか。	17.3	63.9	14.9	3.2
(5)これから行われるオリ・パライベントに参加したいと思いませんか。	16.1	58.2	20.9	4.0

・昨年度行ったアンケートでは「パラリンピックの競技種目を知っていましたか。」の質問に対して53%の生徒は「知らなかった」と答え、知っている競技種目を問うと、テニス・バスケット・ラグビー・陸上・サッカー・水泳・バレー・アーチェリー・卓球・ゴールボールが挙がったが、それほど知っているわけではなかった。今年度、同じ質問をしたところ、上記に加えてバドミントン、カヌー、馬術、ポッチャ、スキー、スノーボード、ホッケーの名前が挙がった。2020年も近づき、メディアでの宣伝も増えていることから、パラリンピックの認知度も上がってきたことがわかった。



・三澤選手の講演では、6歳で片足を失うという事故に遭いながらも、そこであきらめることなくいろいろなスポーツにチャレンジしてきた、前向きな考え方に生徒たちは感動していた。また、三澤選手を支えた家族、特に母親の言葉に感動し、あらためて家族の大切さに気付く生徒も多かった。さらに、トレーニングで鍛えた体を披露して、義足を外して体育館ステージから片足で飛び降りてくれたが、その身体能力の高さに、一同驚いた。

・アンケートの結果を見ると、講演を聞く前のパラリンピックに対する興味は「とてもある・ある」を合わせて45.7%であったが、講演後の興味

	<p>は、94.4%に上がっている。オリンピック・パラリンピックにボランティアなどで主体的に参加してみたいとの回答も80%を超えており、三澤選手の講演のおかげで、オリンピック・パラリンピックへの興味関心の向上の狙いは達成できたものとする。</p> <p>以下、生徒の感想文より</p> <p>「6歳で片足を失った話がすごく悲しかったけど、そこからの人生の話が明るくて、自分もいろんなことに挑戦してみたいと思った。足を失った時の話を詳しく話せる人は、なかなかいないと思う。自分のことをしっかりと話すその勇気が自分にはないな、と感じた。将来、自分の話を人にできるような大人になっていきたい。パラリンピックはあまり見ていなかったけど、次のパラリンピックは家族で見ようと思った。」</p> <p>「交通事故で左足のほとんどを失ってしまっても、負けたら悔しい、勝つまで挑戦する、と小学生の頃から言っていて、かっこいいと思った。『足がなくてもなんでもできる、やるのが大切』という三澤さんの言葉を聞いて、今まではできなそうなことは、やる前から私にはできないな、と挑戦せずにいたけれど、結果ばかりを気にするのではなく、努力や工夫をたくさんして、一つ一つ取り組んでいきたい。また、三澤さんたちパラリンピックの選手の方々のサポートをできるような活動があったら、行いたいと思った。」</p> <p>「最初はオリンピックに目を向けがちだったが、パラリンピックもぜひ見てみようと思った。自分が置かれている環境を理由に、何かをしないのはいけないことだと改めて感じた。私はその環境を楽しめるくらい物事を工夫して人生を送っていこうと思った。三澤選手に周りの人に『ありがとう』と言う大切さを改めて感じさせられた。」</p> <p>「足がないということを使い訳にしないところがすごいと思いました。三澤選手がすごくポジティブに感じました。自分は今、部活動で悩んでいたけれど、三澤選手の話聞いて、とても参考になりました。ポジティブに考えることが大切で、挑戦し続けることが重要なのだと思いました。三澤選手の筋肉を見て、相当な努力をしているんだなあと感じました。」</p>    <p>・この講演会については、教育庁に資料提供をし、IBS 茨城放送が取材に来ており、三澤選手の講演の一部や、本校生徒へのインタビューが放送された。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	昨年度、体験型(ポッチャ中心)の講演・実技を実施したので、今年度はパラリンピックに出場している選手の話をもっと直接聞きたい、という要望が出て、三澤選手をお招きした。
8主な課題等	この事業の計画は年度途中に入れざるを得ず、時間の確保が難しく、事前指導、事後指導を十分に行えなかった。
9来年度以降の実施予定	障害者スポーツ理解のための講演会、ワークショップ、校内競技大会等の実施。スポーツを通じた特別支援学校との交流や競技会など。